

講義シラバス

後藤玲子・一橋大学経済研究所教授（経済哲学）

厚生経済学と政治哲学のコラボレーションに向けて

1. 経済学理論の政治哲学的分析——「平等」を素材として——
2. 政治哲学理論の経済学的分析——「正義」を素材として——

松井暁・専修大学経済学部教授（マルクス主義哲学及び経済原論）

「自由主義と社会主義の規範理論」

文献：松井暁著『自由主義と社会主義の規範理論：価値理念のマルクスの分析』
（大月書店、2012年）

- 1 自由主義と社会主義の規範理論、2 社会主義規範理論の分析、3 正義、
- 4 所有、5 自由、
- 6 平等、7 功利、8 コミュニティ、9 疎外、10 自由主義の発展としての社会主義

齊藤誠・一橋大学経済学研究科教授（新古典派マクロ経済動学）

「新古典派動学モデルのリッチな側面とプアーな側面」

1. ラムゼーモデルのクイック・ツアー
2. 資産価格形成と動学的資源配分の関係について
3. 経済主体が鞍点経路を選択するとは？
4. 動学モデルの中のマクロ経済統計

吉田博之・日本大学経済学部教授（非線形マクロ経済動学）

「非線形マクロ動学」

概要：

1. 非線形動学を用いるための微分方程式の解説
経済動学を理解するために最低限必要な知識を提供することを目的とする。余裕があれば、Hopf分岐やShilnikov分岐などについても言及する。
2. 非線形型動学を応用した先駆的なモデルの解説
主に、Kaldor (1940) と Goodwin (1967) のモデルについて解説する。

時間的な余裕があれば、その他の景気循環モデルについても言及する。

佐々木啓明・京都大学経済学研究科准教授（ポストケインズ派マクロ経済理論）

「Distribution and Growth in Classical and Kaleckian Growth Models」

（古典派成長モデルとカレツキ派成長モデルにおける分配と成長）

概要

賃金・利潤間の所得分配の変化は経済にどのような影響を与えるのだろうか。これは経済学という学問が生まれた当初から現代にいたるまで、重要な問題でありつづけている。本講義では、古典派成長モデルとカレツキ派成長モデルにおいて、所得分配の変化が経済成長、産出、雇用といったマクロ変数にどのような影響を与えるのかを解説する。そのさい、貯蓄関数の定式化を変更した場合、投資関数の定式化を変更した場合、利潤の一定割合を労働者に還元するプロフィット・シェアリングを考慮した場合、といったいくつかの拡張も考慮する。

第1時限：古典派成長モデルにおける分配と成長の関係

第2時限：カレツキ派成長モデルにおける分配と成長の関係

大野隆・立命館大学経済学部准教授（Harrod-Okishio的経済動学）

「資本制経済の動学理論」

1. 資本制経済の基礎構造
2. 「均衡」蓄積軌道
3. 資本制的蓄積と恐慌

黒瀬一弘・東北大学経済学研究科准教授（Neo-Ricardian Economics）

「Neo-Ricardian Economics」

【目的】

Neo-Ricardian Economics の流れを汲む経済理論の基本的な考え方を理解し、現代経済社会への応用を目指す。

1. Neo-Ricardian Economics とは何か？
 - i) Sraffa & Pasinetti model
 - ii) 不変の価値尺度（標準商品）と所得分配、技術選択
2. Neo-Ricardian Economics の応用
 - i) 動学的標準商品
 - ii) 非収穫逓増下での標準商品と所得分配

吉原直毅・一橋大学経済研究所教授（数理的マルクス経済学）

「数理的マルクス経済学」

1. マルクス的一般均衡フレームワーク

- 1) 厚生経済学の基本定理・ヘクシャー＝オリーエン定理
- 2) レオンチェフ投入産出型経済モデルと非代替定理
- 3) ワルラシアン完全競争均衡とマルクシアン再生産可能解：無制約下の利潤最大化原理と資本制約下の利潤(率)最大化原理

2. 労働搾取関係の生成起源

- 1) 単純商品生産経済における「反『厚生経済学の基本定理』」
- 2) 単純商品生産経済における「労働の不等価交換」の生成